

総合周産期母子医療センターの指定について (東京慈恵会医科大学附属病院)

このたび、東京慈恵会医科大学附属病院を総合周産期母子医療センターとして指定します。

1 医療施設名

東京慈恵会医科大学附属病院

2 所在地

東京都港区西新橋 3-19-18

3 指定年月日

令和 2 年 1 2 月 1 日

4 運営体制

【産科部門】

《規模》

母体・胎児集中治療管理室 (M-F I C U) 6床(占有面積:233.21 m²)

後方病床 (その他の産科病床) 28床

《職員体制》

産婦人科医師 常 勤：28名、非常勤：3名、夜間体制：3名

看護師(含助産師)

母体・胎児集中治療管理室 日勤帯 2名 (準夜・深夜：2名)

後方病床(その他の産科病床) 日勤帯 10名 (準夜・深夜：4名) 【7:1体制確保】

【新生児部門】

《規模》

新生児集中治療管理室 (N I C U) 12床(占有面積:156.09 m²)

回復期治療室 (G C U) 24床

《職員体制》

新生児科担当専従医師 常 勤：8名、非常勤：0名、夜間体制：1名

看護師(含助産師)

新生児集中治療管理室 日勤帯 7名 (準夜・深夜：4名)

回復期治療室 (G C U) 日勤帯 7名 (準夜・深夜：4名)

5 母体・新生児の受入れ及び搬送調整について

- (1) 区中央部の搬送調整については、これまでどおり、愛育病院及び東京大学医学部付属病院が行う。
- (2) 区南部、区東北部、区西部ブロック内の調整が困難だった場合で、各ブロックの総合周産期母子医療センターから搬送先選定依頼を受けた周産期搬送コーディネーターは、第一に慈恵会医科大学病院に対し搬送受入依頼を行い、慈恵会医科大学病院は、「区南部、区東北部、区西部地域を支援する役割を担う総合周産期母子医療センター」として、受入れに協力する。但し、慈恵会医科大学病院よりも他の周産期母子医療センター等の方が依頼元産科施設等に近いと判断される場合等は、第一に他の周産期母子医療センター等へ搬送受入れ依頼する場合もある。
- (3) 港区、中央区の精神疾患合併妊産褥婦や COVID-19 等感染症対応の妊産褥婦の受入れを積極的に行い、対応可能な範囲で他ブロックからも受入れを行う。

〔参考〕取扱実績（令和元年度）

1 新生児部門

新生児病床入院児総数	6 3 6 名
極低出生体重児（1,500 g 未満）入院数	1 8 名
うち超低出生体重児（1,000 g 未満）入院数	1 1 名
人工呼吸管理を要した児の実数	5 8 名
新生児搬送受入数	2 3 名

2 産科部門

院内分娩数	7 8 8 件
帝王切開実施数	2 3 5 件
極低出生体重児（1,500 g 未満）分娩数	2 0 件
うち超低出生体重児（1,500 g 未満）分娩数	1 3 件
妊娠 2 2 週以降の緊急母体搬送数	3 0 件
妊娠 2 2 週以降 2 8 週未満の分娩数（死産を除く）	7 件